

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 1 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20591937

研究課題名 (和文) 治療前婦人科がん不顕性血栓塞栓症発見法と顕性化予防法の確立および発生機序の解明

研究課題名 (英文) Establishment of diagnosis methods for preoperative subclinical venous thromboembolism (VTE) before treatment and preventive managements for clinical onset of VTE in gynecological malignancies patients. And investigation of mechanisms of occurrence of VTE in gynecological malignancies patients.

研究代表者 佐藤豊実 (SATOHI TOYOMI)

筑波大学・大学院人間総合科学研究科・准教授

研究者番号：80344886

研究分野：婦人科悪性腫瘍学

科研費の分科・細目：外科系臨床医学・産婦人科学

キーワード：婦人科悪性腫瘍、静脈血栓塞栓症、治療開始前、予防、危険因子

1. 研究計画の概要

(1) 卵巣がん、子宮体がん、子宮頸がんの治療開始前静脈血栓塞栓症 (VTE) の発生頻度と危険因子を抽出する。

(2) 婦人科悪性腫瘍手術後に発生する症候性 VTE の予防法を確立する。

(3) 組織因子 (TF) の発現を免疫組織学的に検討し、発生機序の一端を解明する。

2. 研究の進捗状況

(1) 子宮体がんの治療開始前の VTE の頻度と危険因子については第一報を英文紙に報告し、子宮頸がんの頻度と危険因子の報告の際には up date を報告する。

(2) 卵巣がんについては本研究スタート前に英文紙に第 1 報を報告しているが、これも子宮頸がんの報告時に up date する。

(3) 子宮頸がんについてはデータの解析が終了し、現在英文論文の執筆中である。

(4) TF に関する基礎研究部分は子宮体がん、卵巣がんで免疫染色を進めているが、研究期間内に英文紙への投稿は困難と思われる。期間内投稿できない場合でもデータの収集までは終了し、研究期間終了後であっても報告は行う。

3. 現在までの達成度

① 臨床研究部分は当初の計画通りに進んでいる。

(理由)

特段の障害がないため。

② 基礎研究部分は計画より遅れている。

(理由)

免疫染色の条件設定にとまどった事、力点を臨床研究の面においていた事による。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 臨床研究はこのまま進め論文化するとともに、学会発表や講演会を通して成果を社会に還元する。

(2) 基礎研究部分は着実に研究を進め、場合によっては次期間での論文報告を目指す。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計 4 件)

① 佐藤豊実、田中勝洋、櫻井 学、越智寛幸、小貫麻美子、岡田智志、水口剛雄、松本光司、沖 明典、吉川裕之、婦人科がん術後 VTE 予防のための術前不顕性 VTE 検出・対応の有効性と限界、日本婦人科腫瘍学会雑誌、29 巻、39-43 頁、2011 年、査読なし

② 佐藤豊実、田中勝洋、道上大雄、櫻井 学、吉川裕之、婦人科周術期における血液凝固障害薬、産科と婦人科、77 巻、938-941 頁、2010 年、査読なし

③ 佐藤豊実、安倍 梓、佐々井真純、中尾砂理、櫻井 学、吉川裕之、血漿 D-dimer 測定を用いた子宮体癌術前不顕性静脈血栓症の診断と術後顕性化の予防、産婦人科の実際、58 巻、1543-1546 頁、2009、査読なし

④ T Satoh, K Matsumoto, K Uno, M Sakurai,

S Okada, M Onuki, T Minaguchi, Y0 Tanaka, S Homma, A Oki, H Yoshikawa: Silent venous thromboembolism before treatment in endometrial cancer and the risk factors. British Journal of Cancer, 99, 1034-1039, 2008, 査読あり

〔学会発表〕(計8件)

①佐藤豊実、他8名、ワークショップ(5) 婦人科がんと血栓塞栓症、婦人科がん術後 VTE 予防のための術前不顕性 VTE 検出・対応の有効性と限界、第 48 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2010 年 7 月 9 日、つくば市

②田中勝洋、他 11 名、子宮頸癌治療前の不顕性 VTE の頻度とそのリスク因子、第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会、2010 年 4 月 23 日、東京

③櫻井 学、他 11 名、婦人科癌治療前の静脈血栓塞栓症 (VTE) に対応した場合の術後 VTE の発症、日本産科婦人科学会学術講演会、2010 年 4 月 25 日、東京

④佐藤豊実、他 11 名、子宮体癌の術前に発見された静脈血栓塞栓 (VTE) と術後に発生した VTE の危険因子の比較、第 61 回日本産科婦人科学会学術講演会、2009 年 4 月 5 日、京都

⑤佐藤豊実、他 11 名、血清 D-dimer 測定を用いた子宮体がん術前不顕性静脈血栓症の診断と術後顕性化の予防、第 60 回日本産科婦人科学会学術講演会、2008 年 4 月 14 日 横浜